

様式第1号

2026年3月31日

政務活動費活動概要報告書

静岡市議会議長 様

日本共産党静岡市議会議員団
団 長 内田 隆典

別紙のとおり、2025年度政務活動費概要報告書を提出します。

(別紙)

事業名	自治体施策の研究
目的	<p>静岡市内の企業の99%が中小企業、雇用の7割以上を担っています。物価の高騰で資材なども値上がりし、中小企業の経営は厳しさを増しています。そうした中で小規模建設業者の支援策を学ぶ。</p> <p>また、本市も高齢化が進み、高齢者の生活支援がますます必要になっています。高齢者の居場所づくりや敬老パスなどの移動支援の先進例を学ぶ。</p>
内容	<p>1. 広島市の小規模修繕契約希望者登録制度について</p> <p>この登録制度は、広島民主商工会などの中小業者団体からの強い要望の応えたもの。市内に主たる事業所を置く小規模事業者の受注機会を確保するとともに、小規模修繕の効率的な発注を図ることを目的として、2005年から制度運用を開始した。</p> <p>具体的な内容は、広島市が発注する小規模修繕工事(予定価格50万円以下で2025年度から100万円以下に増額)の受注を希望する者の登録名簿を作成し、登録者の相見積もりで発注先を決める。登録できる事業者は、市内に重たる事業所を持ち、競争入札参加資格がなく、税金の滞納がないもの。</p> <p>登録者数は、2025年1月現在172者、修繕工事の発注件数は2023年実績で件数は2599件・金額438,778,082円そのうち本制度による発注件数は583件・金額130,784,525円となる。</p> <p>公共事業として技術の信頼性が求められるが、これまで大きなトラブルはない。不具合があっても軽微の仕事であるため、すぐに修正ができる。また、各局・課から直接発注するため、確かな信頼関係が求められ、事業者側の努力も必要となってくる。</p> <p>2. 高松市の高齢者の居場所づくりについて</p> <p>介護予防や健康づくり活動などの拠点づくりを目的に、2014年から高齢者の居場所づくり事業として実施。これによ</p>

って、高齢者の孤立化を予防し、世代間交流の場など気軽に集える居場所の開設を進め、高齢者が住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを継続できる「地域包括ケアシステム」の実現を目指している。

居場所とは、おおむね65歳以上の高齢者が気軽に集うことができる建物のスペースで、介護予防や健康増進、地域のボランティア活動、世代間交流など、様々な地域活動の場となるもの。徒歩圏内（半径500m）に1か所を目安として、300か所を目標としているが、2024年度末には185か所となっている。

実施主体は老人クラブ、自治会から趣味の会など様々で、実施場所も、コミュニティセンター、市有施設、地域の集会所など様々。

市の助成金の交付対象となるには4つの条件があるが、高齢者の健康維持に資するものにしてあり、活動の頻度で助成金額を決定。助成金の対象経費も、様々な項目を設定。健康教育、健康相談、認知症予防等を行い、フレイル状態にある高齢者の支援、検診や受診勧奨を行っている。

居場所づくりの事業効果としては、参加前と後とで、健康状態が維持または改善されたと回答する人は、毎年90%を超えている。また、居場所に参加している人は、介護保険の新規認定率が低く、介護予防の効果がある。しかし、参加者の高齢化等により、この事業を継続するには、新たな参加者の増加を図ることが課題となっている。

3. 岡山市の公共交通敬老パスについて

岡山市の路線バスは2018年時点で市内を運行する路線の約8割が赤字となっており、運行区間は約20年間で25%減少するなど、対策は待ったなしの状況。将来にわたって利便性の高い公共交通ネットワークを構築することを目指し、計画策定や各種施策を実施するために協議会を設置し、地域公共交通網形成計画を策定した。その後、①バス路線の再編、②都心の運賃適正化、③高齢者・障害者の運賃割引の3点を柱に重点的に協議会で議論した。

その中で、高齢者・障害者の運賃割引については、バス協会で作成している「ハレカカード」を活用し、市が割引専用ICカー

	<p>ド「ハレカハーフ」を申込者に交付し、割引額を事業者に補填する制度を構築し、2021年10月1日より開始した。</p> <p>対象者は65歳以上の岡山市民、障害者手帳、特定医療費受給者証、障害福祉サービス受給者証を持っている岡山市民とし、割引率は50%（第1種障害者は介助人も半額）、利用形態は乗車または降車バス停のいずれかが岡山市内の利用とした。（障害者用ハレカハーフは、市外区間のみの利用も割引する）市の負担は、システム導入、カードの調達・発行、割引額の補填。</p> <p>ハレカハーフの交付数は年々増加し、高齢者用が約3.8万人、障害者用が約0.5万人あり、岡山市在住の高齢者の約20%、障害者・難病患者の約11%を占めている。ハレカハーフの延べ利用者数も年々増加し、2024年度には約207万人となり、2025年度は220万人を超える見通しである。</p> <p>ハレカハーフの導入の効果として、①外出機会や歩行距離の増加、他にお金を使うようになったと回答し人が4～6割いる。②自動車の利用頻度が減少した割合が約4割。免許を返納した・検討している割合が約3割ある。③高齢者の利用者数は、路線バスが9%、路面電車が20%増加している。</p> <p>福祉政策として、公共交通の維持は重要であり、赤字路線の見直しやコミュニティバスへの支援、デマンドバスの利用など、空白地域がないようにさらに検討を進めていく。</p>
<p>調査研究の具体的な成果又は市政への反映の状況</p>	<p>1. 広島市の小規模修繕契約希望者登録制度について</p> <p>こうした登録制度があることで、入札参加資格がない小規模場建事業者にも簡易ではあるが公共工事を請け負う機会を得ることができていることが分かった。こうした制度について静岡市は、公共工事であることから品質や技術が求められ、これまでこの点がハードルとなっていたが、広島市での実績では、小規模修繕工事であることや、区内の事業者を利用することで「顔が見える受発注」となっているもとのこと、大きなトラブルはないとのこと。この点も踏まえて静岡市での制度創設に繋げたい。</p> <p>2. 高松市の高齢者の居場所づくりについて</p> <p>この取り組みは、静岡市のS型デイサービスによく似ている</p>

感じがした。補助金の支給条件は健康に資するものならよく、活動頻度で助成額も変えることで、少しの活動でも参加できるようになっている。半径 500 メートルに 1 か所を市が目標もって進めているところに、市のやる気を感じた。

居場所づくりの事業効果として、参加の前と後とで、健康状態が維持または改善されたと回答する人は、毎年 90% を超えていて、居場所に参加している人は、介護保険の新規認定率が低く、介護予防の効果があるとのこと。

静岡市の S 型デイサービスの開催要件など、高松市の居場所づくりと比較し、静岡市の S 型がさらに活発に活動して広げられるように検討していく。

3. 岡山市の公共交通敬老パスについて

岡山市のハレカハーフで高齢者などの外出機会や歩行距離が増加し、他にお金を使うようになった。自動車の利用頻度が減少し、免許の返納や検討を促している。また、高齢者の公共交通の利用者数は、路線バスが 9%、路面電車が 20% 増加している。など明らかに敬老パスは市民の暮らしを支えている。

静岡市は過去に敬老パスのような助成制度があったが、今は廃止している。このような効果があることを改めて認識してもらい、静岡市でも高齢者や障がい者のための公共交通割引制度の事業化に取り組んでいきたい。